



# 1 説明的文章(1) 話題

学習の  
ねらい

- ・ 話題とは何かを理解する。
- ・ 話題を捉えるための着眼点について理解する。

## ポイント

### 1 説明的文章(説明文・論説文)の特色

- (1) 説明的文章…事実や筆者の主張をわかりやすく論理的に説明した文章の特色
- (2)
  - ① 随筆などの文学的文章と異なり、説明的文章はあるテーマについて筋道立てて説明する文章であり、文章の構成が明確である。
  - ② 事実や情報(データ)に基づいた、具体的な説明がある。
  - ③ 筆者の意見やその理由(根拠)が文章中に示されている。

### 2 話題とは

話題：「何について」の文章であるか  
 まず話題をおさえた上で、その話題について筆者がどのような考えや意見を述べているかを読み取る。

### 3 話題のつかみ方

- (1) キーワードを探す  
 文章中で繰り返し使われている言葉(キーワード)に着目する。特に題名、文章の最初や最後の部分などに注目する。
- (2) 話題の示し方のパターンを知る  
 文章の初めに話題を提示するのではなく、読者の興味を引きつけてから話題を導入する、次以下のようなパターンもある。

例

① 筆者の経験や見聞きしたエピソードを紹介し、話題に関係つけていく。  
 私の知人は小説を読まないと言う。架空の物語である小説を読むことに意味はないと言うのだ。(↓エピソード)  
 しかし例えば、部長として部員をまとめることに悩んでいる中学生が、戦国大名を主人公とする歴史小説を読み、諦めない姿勢で周囲を味方につけていく物語に勇気づけられて、部活への意欲を取り戻すということがある。物語を疑似体験することで、人生に対する考えを深めることは、小説を読む意味の一つである。

例

↓話題…○「小説を読む意味」  
 ×「知人の読書論」 ×「中学生への歴史小説のすすめ」  
 ② ある問いを読者に投げかけ、話題に対して疑問や興味を持たせる。  
 コンビニでちょっととした買い物をしただけで、いい気持ちになること  
 もあれば、逆にいやな気持ちになることもある。その違いはどこにあるの  
 だろうか。(↓問い)  
 店員の対応にはマニュアルがあり、言葉も丁寧だ。しかし相手にメッ  
 セージを伝えるのは言葉ばかりではない。同じやりとりをしても、それ  
 が温かなものとなるか、ぎすぎすとしたものとなるかは、口調や態度  
 といった非言語のメッセージが左右している。……(↓問いへの答え)  
 ↓話題…○「非言語のメッセージの重要性」 ×「良い店、悪い店」

# 演習問題 A

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(鷺田清一「わかりやすいはわかりにくい?——臨床哲学講座」より)

20 15 10 5

□(1) この文章はどのような話題について書かれていますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 摂食障害の効果的な治療方法

イ 親密さと信頼を育む共食の習慣

ウ 人といっしょに食べることの意味

エ ひとり暮らしをすることのリスク

□(2) A 〽 D に入る言葉として最も適切なものを、それぞれ次から

選び、記号で答えなさい。

ア やがて イ たとえば ウ つまり

エ ついに オ さらに

A [ ] B [ ] C [ ] D [ ]

□(3) 線①「食事の時間が一定しない」とありますが、筆者はその原因を

何だと考えていますか。文章中の言葉を用いて答えなさい。

[ ]

□(4) この文章には具体例が挙げられていますが、それはどこからどこまで

すか。初めと終わりの五字を書き抜きなさい。

[ ]

□(5) 線②「こういう意味」とありますが、どのような意味ですか。「〽

意味。」につながるように本文中から二十四字で探し、初めの五字を書き抜きなさい。

[ ]

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(注) 新渡戸稲造：一八六二～一九三三 (稲垣栄洋「イネという不思議な植物」より)  
 日本の教育家。政治家・農学者としても活躍した。

20 15 10 5

□(1) この文章の内容をまとめた次の文の a、b、c にあてはまる言葉を、それぞれ二字で文章中から書き抜きなさい。

話題： a によって育まれた日本人の国民性について

・ 自分の意見よりも b に同調することを重んじる

・ c 性を重んじ、力を合わせて行動することが得意

↓村中で協力しなければ行うことができない a の特徴から

a

b

c

□(2) X に入る四字熟語を書きなさい。

□(3) — 線「アメリカ人の新渡戸稲造の妻が驚いたエピソード」とありますが、このエピソードはどのようなことか例として挙げられていますか。一文で探し、初めの五字を書き抜きなさい。

□(4) この文章の内容と展開を説明したものととして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 筆者の主張を示した上で具体例を挙げ、最後にもう一度筆者の主張をまとめている。

イ 身近な話題から疑問を投げかけ、読者それぞれに考えさせるきっかけを提示している。

ウ 筆者の考察を示すことなく、具体例によって読者にその意味を読み取らせようとしている。

エ 具体例を挙げた後にそこから読み取れる内容を指摘し、最後にその理由を分析している。

# 演習問題 B

◆ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

25 20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(樋口裕一「頭がいい」の正体は読解力」より)

45 40 35 30

□(1) この文章はどのような話題について書かれていますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 読解力のつけ方
- イ 読み書きとスポーツの共通性
- ウ 文章を書くことの効能
- エ 文章の推敲の仕方

[ ]

□(2) Aには反対の意味の漢字を組み合わせた熟語が入ります。適切な言葉を二字で書きなさい。

[ ]

□(3) B・Cに入る言葉として最も適切なものをそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

- ア したがって
- イ たとえば
- ウ ところが
- エ なぜなら

B [ ] C [ ]

◎(4) —線「野球やサッカーなど、いくら見方を覚えても、実際にプレイしなければ、深く見ることはできない」とありますが、これらはどのようなことこの例として挙げられていますか。文章中の言葉を使って、四十字以内で書きなさい。


◎(5) 野球やサッカーと同種の例としてあてはまらないものを、次から選び、記号で答えなさい。

- ア 料理を覚えて、食材の組み合わせや味付けの工夫がわかるようになる。
- イ 家庭菜園で野菜を育てるようになって、農作業の大変さがわかる。
- ウ 役者として舞台に立った経験があるからこそ、演劇の批評が書ける。
- エ 楽器を弾いたことのある人は、人の演奏の上手下手を聴き分けられる。

[ ]

□(6) この文章を内容のまとまりの上から二つに分けると、二つ目の段落は⑤段落から始まりますが、そのように言える理由をまとめた次の文のa～cにあてはまる内容を、文章中からそれぞれ指定の字数で書き抜きなさい。

- ①～④段落は、a(三字)をつけるにはb(五字)必要があるということについて述べているが、⑤段落以降は、b(五字)だけでなくc(三字)が高まるということについて述べている。

a	b	c
[ ]	[ ]	[ ]
[ ]	[ ]	[ ]
[ ]	[ ]	[ ]

□(7) この文章には、次の一段落が抜けています。どこにもどすのが最も適切ですか。直後の段落番号で答えなさい。

そして、それは文章を書くことによって、思考できるようにもなるということを意味する。

[ ]

# 部首・漢字の音訓

## ポイント

★部首：漢字を分類して並べるときの目印。

### 頻出部首

- ① へん 言・イ・イ・ト・ネ・ネ・シ・オ・糸・ネ・禾・月
- ② つくり 立・尸・カ・頁・攴・隹
- ③ かんむり 土・土・ウ・フ・竹・艸
- ④ あし 心
- ⑤ たれ 尸・尸・尸
- ⑥ によろ 之・又
- ⑦ かまえ 口・門・口

★漢字の音訓：次の点が入試で狙われる。

- ① 複数の音がある漢字 例 貿易 (ボウエキ) ・ 容易 (ヨウイ)

画・強・興・行・雑・次・柔・省・象  
 ゴウ キョウ コウ コウ ザツ ジュウ ショウ ソウ  
 カク トウ キョウ ゴウ ゴウ ニョウ セイ ショウ  
 ゼン タイ ト ノウ ナツ ハツ モ ユウ ユウ リツ  
 テイ ツ トウ ホツ ホ ユウ ソツ

- ② 複数の訓がある漢字 例 冷 (つめたい・さーめる・ひーえる)

汚・覚・滑・危・厳・試・集・重  
 ヨウ カク スベル アハナイ キビシイ ナメス オツメル  
 カヘリ ナミ オホキル ナメカク アヤウイ オホソカ ココロオモフ トビウ カサネル  
 省・生・速・怠・弾・著・跳・訪  
 ハクク ナマキ ハヤイ ナマシル ヒク アツワセ ハルル ナツネル  
 スミヤカ オホタル ハサミイ いるるしい とぶ おとすれる

- ③ 熟字訓 例 熟語に一つの訓があたるもの。

- ④ 熟語の音訓 例 重箱 (音+訓) ・ 手本 (訓+音)

1 例にならって、次のそれぞれの漢字の部首名と、その部首の元になっている漢字を書きなさい。

例 仕 (にんべん・人)

- |     |     |     |     |      |
|-----|-----|-----|-----|------|
| 複   | 憶   | 清   | 聞   | 然    |
| (1) | (3) | (5) | (7) | (9)  |
| 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕  |
| 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕  |
| 神   | 劇   | 折   | 開   | 脳    |
| (2) | (4) | (6) | (8) | (10) |
| 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕  |
| 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕  |

2 次のそれぞれの組から、線部の漢字の音が他と異なるものを選び、記号で答えなさい。

- |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 証 拠 | 根 拠 | 柔 軟 | 柔 順 | 貴 重 | 尊 重 | 強 情 | 強 調 | 国 境 | 逆 境 | 貿 易 | 容 易 |
| (1) | (1) | (2) | (2) | (3) | (3) | (4) | (4) | (5) | (5) | (6) | (6) |
| 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 |
| 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 |
| 抛 点 | 論 拠 | 柔 和 | 懷 柔 | 慎 重 | 鈍 重 | 強 引 | 強 盜 | 境 内 | 境 界 | 難 易 | 簡 易 |

3 例にならって、次の漢字の訓読みを二つ、それぞれ送りながをつけて書きなさい。

例 強 (つよい・しいる)

- |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|
| 試   | 著   | 嚴   | 滑   |
| (1) | (2) | (3) | (4) |
| 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 |
| 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 |

4 次の言葉 (熟字訓) の読み方を、ひらがなで書きなさい。

- |     |     |     |
|-----|-----|-----|
| 笑顔  | 芝生  | 名残  |
| (1) | (3) | (5) |
| 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 |
| 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 |
| 心地  | 梅雨  | 土産  |
| (2) | (4) | (6) |
| 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 |
| 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 |

5 次の熟語と読み方 (音訓) の組み合わせが同じものをあとから選び、記号で答えなさい。

- |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|
| 職 場 | 未 来 | 手 順 | 青 空 |
| ア   | (1) | (3) | イ   |
| 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 |
| 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 |
| 合 図 | 旅 先 | 新 芽 | 家 庭 |
| エ   | (2) | (4) | ウ   |
| 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 |
| 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 | 〔 〕 |

ポイント

1 要旨

要旨とは——筆者の最も述べたいことを短くまとめた文のこと。文章構成に注目してつかむとよい。

2 文章構成の基本型(要旨をまとめる参考となる)

序論(文章のテーマ・問題提起) ↓ 本論(筆者の意見や理由) ↓ 結論(筆者が最も伝えたいこと) の大きな三つの柱で構成される。

例

あなたは「食べれる」「来れる」といった表現を耳にする時、どう感じるだろうか。これらは「ら抜き言葉」と言われ、言葉の乱れの例としてよく挙げられるが、実は、誤用が時の経過とともに一般的になった例はこれまでに多くある。【序論(話題)】  
古くは「枕草子」において清少納言が、「言はんとす」(言おうと5 思う)の「と」を略して「言はむずる」と言うことなどを嘆いているが、この「む(ん)とす」を略した表現の「むず(る)」も、のちに助動詞として定着した。【本論】  
従来の文法に当てはまらない用例も、一般的になれば新たな文法として定着する。その意味では言葉に「乱れ」はなく、ただ「変化」があるだけだ。【結論】

3 文章構成の種類

結論が文章のどこに位置しているかに着目し、大きく三つに分けられる。

- (1) 尾括型——はじめに詳しい説明を展開し、最後に結論を述べる。
- (2) 頭括型——はじめに結論を述べ、そのあとに詳しい説明をする。
- (3) 双括型——頭括型の最後に再び結論を述べる。

4 要旨の求め方

文章構成をつかむ

……話題と、中心段落の位置をつかむ。

(手順) ①各段落の要点を読み取る。

②各段落の働きをつかむ(話題・説明・結論段落に分けてみる)。

③中心段落をみきわめる。

中心段落の要点をまとめる

……話題に対する答え・意見(結論)が示さ

れている部分をつかむ。

要旨としてまとめる

……結論だけでなく、話題もわかるようにする。

(上段の例の場合)

従来の文法に当てはまらない用例も、一般的になれば新たな文法として定着するのであり、その意味では言葉に「乱れ」はなく、ただ「変化」があるのだ。

※「ら抜き言葉」は論点(言葉の乱れか、変化か)を引き出すためのきっかけ。

※ 要旨をまとめるときの留意点

- ・できる限り文章中の語句・表現を用いてまとめる。
- ・中心段落の中心文をもとに、話題(序論)や、説明(本論)の部分からも必要な内容を補う。
- ・簡潔で分かりやすい表現を心がける。